


平成29年度 実施事業の概要

施設名： 国立妙高青少年自然の家
教育事業名： 学社共同参画セミナーⅠ・Ⅱ
期間：平成29年8月20日（日）～8月22日（火）（2泊3日） 平成30年2月16日（金）～2月18日（日）（2泊3日）
対象及び参加人数：学校教育、社会教育の指導者をめざす大学生 Ⅰ：16名 Ⅱ：11名
目的： 教員等を志す学生に対し、社会教育に関する演習を実施し、事業の企画・運営・評価を実践的に学ぶ機会を提供する。
事業概要： 妙高の特色である森・山・川を活用した自然体験活動を体験し、その基礎技術や指導技術を取得できるようにするとともに、社会教育事業としての企画・運営・評価を学べるようにする。 特に、体験による学びの手法を中心に演習し、事業推進の観点を重視し実施する。 国立妙高青少年自然の家の活動プログラムを活用して、夏季のフィーリングネイチャーや秘密基地作り、冬季の雪上活動をとおして自然環境について体感することができるようにする。野外活動等における安全管理について学ぶ。
成果： 夏季は秘密基地作り、フィーリングネイチャー、冬季はスノーシューハイク、雪中泊を体験することで、実体験をもとにした事業における企画・運営・評価を学ぶことができた。 夏季、冬季ともに、グループワークを実施した。夏季は、事業の企画立案の観点から、冬季はマネジメントの観点から行った。互いの意見を出し合いながら、立案やマネジメントをすることで1人1人の参加者の考えを広げる場を提供できた。 参加については、以前からの上越教育大学、新潟青陵大学、信州大学に加え、今年度は上越教育大学大学院、松本大学教育学部から新たに参加者を得ることができた。幅広く広報していることが成果となった。参加者数は減少傾向にあるが、妙高青少年自然の家のフィールドを活用し、自然体験活動の基礎技術や指導技術の習得の場を提供できた。 次期学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」において、今後の教育を担う大学生に様々な体験を提供できるように、来年度以降も参加者の確保に努めていきたい。

課題： 受講生の減少傾向がある。大学生だけでなく、社会教育にニーズがあると考えられる大学院生、専門学校生などに、広報の対象を明確にし、広げていく。また、プログラムをより充実していくことで、より多くの学生が参加できるようにしていく必要がある。